

学長表彰に係る学生の学業並びに研究活動等の功績

【大阪公立大学】

氏名	成績や功績の内容（所属長推薦理由）	補足事項
こしぐち そうし 越口 蒼士	第63回大気環境学会年会 若手優秀賞（口頭発表部門）受賞	講演番号：1C1153 発表した論文タイトル：凍結凝縮反応による臭素の生成と放出 発表者：○越口 蒼士,中西 皓哉,竹中 規訓,藤井 佑介 (○：演者)
おおなか あつと 太中 惇斗	第68回有機金属化学討論会にて、ポスター賞を受賞した。本討論会は、有機化学の中でも特に活発な分野である有機金属化学における重要な討論会である。また、口頭発表は上級研究者（学生の場合にはD2以上）に限るという規定が定められている。したがって、D1以下の学生は必然的にポスターが唯一の発表の場となり、さらに1研究室から4件を発表申し込みの上限としているために、本討論会で発表される研究のレベルは非常に高く設定されている。そのような背景のもとで、公立大学からは太中君が唯一の受賞者となった。他の有名な旧帝大研究室からの受賞者が多数を占めるなかでの太中君の受賞は本学の名誉を高めることに大いに寄与したとともに、学長表彰に値すると判断されるため、ここに同君を推薦する。	94件（全発表119件のうち）が対象となり、下記のURLに記載の18件がポスター賞に選ばれた。 https://kinka.or.jp/om/poster/p_068.html
おおむら みか 大村 美香	第68回日本生化学会 近畿支部例会（令和4年5月28日、滋賀医科大学、滋賀）における「優秀発表賞」の受賞。 口頭発表演題：「インクジェット装置と膜透過性ペプチドを組み合わせた細胞内導入技術の開発」 発表内容：がんを含む疾患関連細胞への選択的な薬物送達の基盤手法として、新たにインクジェットシステムと膜透過性ペプチドの画期的な組み合わせ技術構築に世界で初めて成功し、抗体（分子量が約15万）といった巨大分子も狙った細胞群の膜を通過し、サイトゾルへ導入できることが示された。 学生・若手研究者としての益々の飛躍と研究発展が大いに期待され、ここに推薦する。	上記「優秀発表賞」は審査対象61人中19人が受賞。 加えて特記事項として、上述学会での受賞に加え、修士1年でありながら学術論文においても、これまでに3報（全て原著論文）で貢献しており、さらなる活躍が大いに期待できる。 Takatani-Nakase, T., Matsui, C., Hosotani, M., Omura, M., Takahashi, K., Nakase, I. Hypoxia enhances motility and EMT through the Na ⁺ /H ⁺ exchanger NHE-1 in MDA-MB-231 breast cancer cells. <i>Exp. Cell Res.</i> 412(1):113006 (2022) Inoue, M., Sakamoto, K., Suzuki, A., Nakai, S., Ando, A., Shiraki, Y., Nakahara, Y., Omura, M., Enomoto, A., Nakase, I., Sawada, M., Hashimoto, N. Size and surface modification of silica nanoparticles affect the severity of lung toxicity by modulating endosomal ROS generation in macrophages. <i>Part. Fibre. Toxicol.</i> 18(1):21 (2021) Nakase, I., Ueno, N., Matsuzawa, M., Noguchi, K., Hirano, M., Omura, M., Takenaka, T., Sugiyama, A., Bailey Kobayashi, N., Hashimoto, T., Takatani-Nakase, T., Yuba, E., Fujii, I., Futaki, S., Yoshida, T. Environmental pH stress influences cellular secretion and uptake of extracellular vesicles. <i>FEBS Open Bio.</i> 11(3):753-767 (2021)
たけうち みか 竹内 未佳	【学術研究】 第11回 JACI/GSCシンポジウム（令和4年6月15日（水）・16日（木）オンライン開催）にて「GSCポスター賞」として選定された。 講演題目「生体触媒利用による二酸化炭素を原料としたプラスチック原材料合成系の新規開発」	【大会概要】 公益社団法人新化学技術推進協会（JACI）が主催するシンポジウムで一般講演はポスター発表で構成されている。 【規模】 総発表数 200件 35歳以下の若手研究者・技術者を対象とし、200件の応募発表に対し、産学官の委員による発表の内容、GSC推進への貢献度、プレゼンテーション等を審査し、特に優れた発表23件がGSCポスター賞に選定された。 【その他特記事項】 当該表彰対象業績に関連して以下の学術論文掲載及び表彰も受けている。 ① MikaTakeuchi andYutakaAmao.“Biocatalytic fumarate synthesis from pyruvate and CO ₂ as a feedstock”, <i>Reaction Chemistry&Engineering</i> , 2022,7,1931-1935. ②2022年度触媒学会西日本支部第13回触媒科学研究発表会ポスター賞受賞
せがわ ゆみ 瀬川 夕海	[学術研究] 2022年電気学会 電子・情報・システム部門大会 (2022年8月31日—9月3日) 上記大会において「Outstanding Student Presentation Award」を受賞した	タイトル「Spatiotemporal dynamics of evoked neuronal responses induced by a focused femtosecond laser」 【大会概要】 産学官を問わず、電気・情報・システム工学に関する研究成果を発表する全国規模の年次大会である。博士後期課程以下の学生に英語での論文の作成・発表・質疑応答を経験する場として「Student Competition Session」を開催しており、優秀な発表がOutstanding Student Presentation Awardとして表彰される。 【規模】 発表件数 450件（内Student Competition Session 22件） 受賞者数：5名
つるた ともし 鶴田 智暉	[学術研究] 第42回有機合成若手セミナー「明日の有機合成を担う人のために」(2022/8/10) 上記セミナーにおいて、「優秀研究発表賞」を受賞した。	タイトル「分子内還元的求核付加を鍵反応とするドラスタン型ジテルペンの合成研究」 【大会概要】 有機合成に関係する若い研究者を対象に、第一線で活躍する先生の講義と若手研究発表（プレゼンテーション&質疑応答）を行うセミナーです。参加者：約300名。 【規模】 若手研究発表件数：51件、優秀研究発表賞：7件
あさだ とうこ 浅田 統子	第24回化学工学会学生発表会にて優秀賞を受賞。 開催日：2022年3月5日 発表題目：大腸菌を用いた白金のバイオ回収 発表者：○浅田統子、野村俊之	

<p>おおしろ あつし 大城 篤司</p>	<p>第24回化学工学会学生発表会 (2022/3/5)において、優秀賞を受賞した。</p>	<p>公益社団法人化学工学会が主催する研究発表会において、化学工学に沿った口頭発表が行われた。本大会において、題目</p> <p>「塑性変形性の異なる粉体材料の圧縮特性評価」</p> <p>の口頭発表を行い、優秀賞を受賞した。</p> <p>口頭発表者：324名 優秀賞受賞者：45名</p>
<p>おかむら たいき 岡村 大毅</p>	<p>【学術研究】 2022年3月5日にオンラインで開催された第24回化学工学会学生発表会において、「優秀賞」を受賞した。 タイトル「Thermomyces lanuginosus由来のリパーゼへのメタノール耐性付与」 発表者：(阪府大工)○岡村 大毅・(阪府大院工) 野上 洋平・松本 拓也・山田 亮祐・荻野 博康</p> <p>【大会概要】 化学工学分野に関する学生の研究成果を発表する全国規模の大会です。</p> <p>【規模】 発表件数：312件 優秀賞数：45件</p>	
<p>ごとう ゆうと 後藤 佑斗</p>	<p>令和4年7月15日に開催された第65回高分子研究発表会（神戸）にて以下の発表題目の研究発表を行い、エクセレントポスター賞を受賞した。 発表題目： 「糖に応答してTurn-on型蛍光を示す機能性高分子の合成」</p>	<p>大会概要：産官学を問わず、高分子に関する研究成果を発表する年次学会</p> <p>規模：ポスター発表件数：119件 受賞者数：10名</p>
<p>たじま まさや 田嶋 将也</p>	<p>第24回学生発表会 (2022/3/5)において、優秀賞を受賞した。</p>	<p>公益社団法人化学工学会が主催する研究発表会において、化学工学に沿った講演や口頭発表が行われた。本大会において、題目</p> <p>「ナノ粒子の細胞膜透過現象におけるコレステロールの影響」</p> <p>の口頭発表を行い、優秀賞を受賞した。</p> <p>口頭発表者：324名 優秀賞受賞者：45名</p>
<p>まつもと じょうすけ 松本 稷之介</p>	<p>化学工学会第87年会 (2022/3/18)において、学生奨励賞を受賞した。</p>	<p>公益社団法人化学工学会が主催する研究発表会において、化学工学に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目</p> <p>「混練状態の把握を目的とした湿潤混練物の圧力伝達率の解析」</p> <p>のポスター発表を行い、学生奨励賞を受賞した。</p> <p>ポスター発表者：317名 学生奨励賞受賞者：16名</p>
<p>むらおか たつや 村岡 達也</p>	<p>以下の通り、被推薦者は国内著名な学会 ((公社)大気環境学会) で発表し、学生優秀発表賞 (ポスター発表部門) を受賞した。学長表彰に関する要綱第2条(1) に該当すると考えられるため推薦する。</p> <p>第63回大気環境学会年会において若手優秀発表賞(ポスター発表部門)を受賞した。 発表タイトル 「2020年夏季京都市内におけるオゾン生成レジームの実測による評価」 受賞年月日: 令和4年9月15日</p>	<p>選考対象のポスター発表件数: 34 件、受賞者数: 4 名</p>
<p>よこかわ しょうた 横川 昇汰</p>	<p>日本鉄鋼協会 第183回春季講演大会 (2022/3/15-2022/3/17)において、努力賞を受賞した。</p>	<p>一般社団法人日本鉄鋼協会が主催する研究発表会において、鉄鋼に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目</p> <p>「生石灰を含む微粉鉱石の造粒特性」</p> <p>のポスター発表を行い、努力賞を受賞した。</p> <p>ポスター発表者：70名 努力賞受賞者：15名</p>
<p>よねだ かつき 米田 克輝</p>	<p>候補者(米田君)は、令和4年9月7～8日に開催された第65回粘土学会討論会において、「LDHナノ粒子濃厚分散系の溶媒特性評価」という題目でポスター発表をおこない、優秀講演賞を受賞した。</p> <p>粘土学会討論会は、一般社団法人・日本粘土学会が主催する討論会であり、年1回開催されている。第65回大会はハイブリッド開催 (@島根大学) であり、134人の対面参加があった。ポスター発表では、38件の発表があり、2件の優秀講演賞が授与された。候補者の発表はこのうちの1件に選ばれ表彰された。</p> <p>以上、候補者の優れた研究活動業績に鑑みて、学長表彰に推薦する。</p>	
<p>よねやま まうむ 米山 まうむ</p>	<p>米山まうむ君は、令和4年度、測位航法学会主催、全国大会研究発表会において、「アレーアンテナによるGNSSマルチパスの方向推定及び誤差低減に関する研究」というタイトルで優れた研究発表および質疑応答を行い、学生最優秀学生研究発表賞を受賞した (11名中1名)。 また、優れた研究内容を評価され、同学会の発行するニューズレター (Vol.VIII, No.3) への執筆を依頼され、研究背景から成果まで詳述するなど、本学の研究成果の航法にも貢献しており、受賞に値すると思われる。</p>	

<p>かんばやし けいた 上林 恵太</p>	<p>第31回（2021年度）日本航空宇宙学会 論文賞を第一書写として受賞。 著者 Keita KAMBAYASHI, Nozomu KOGISO, Takayuki YAMADA, Kazuhiro IZUI, Shinji NISHIWAKI, Masato TAMAYAMA, Multiobjective 論文名 Topology Optimization for a Multi-layered Morphing Flap Considering Multiple Flight Conditions 掲載誌（日本航空宇宙学会英文論文誌） Transactions of the Japan Society of Aeronautics and Space Sciences, 63, 3, (2020), pp. 90-100, DOI: 10.2322/tjsass.63.90</p>	<p>表彰状の写真および選考理由が書かれた日本航空宇宙学会誌の記事PDF ファイルを添付.</p>
<p>きしだ なおき 岸田 尚樹</p>	<p>一般財団法人粉体工学会 2022年度春期研究発表会 (2022/5/17, 18)において、BP(ベストプレゼンテーション)賞を受賞した。 Advanced in Particle technology 2022 (AiPT 2022) (2022/9/14, 15)において、Poster Award First Prizeを受賞した。</p>	<p>一般財団法人粉体工学会が主催する研究発表会において、粉体工学に沿った講演や口頭発表が行われた。本大会において、題目 「機械学習を用いた粉体混合シミュレーションの高速化」 の口頭発表を行い、BP(ベストプレゼンテーション)賞を受賞した。 口頭発表者：15名 BP賞受賞者：3名 イギリス リーズ大学において開催されたワークショップにおいて、粉体工学に沿った講演やポスター発表が行われた。本ワークショップにおいて、題目 「High speed powder mixing simulation using machine learning model」 のポスター発表を行い、Poster Award First Prizeを受賞した。 ポスター発表者：8名 Poster Award First Prize受賞者：1名</p>
<p>ふじた ゆうし 藤田 侑志</p>	<p>電気化学会第89回大会(令和4年3月15日～17日開催)において、「優秀学生講演賞」を受賞（受賞日：令和4年3月17日） 発表題目：Li2S-Li2O-LiI系正極材料の作製と全固体Li/S電池への応用</p>	<p>年1回開催される全国規模の学会(電気化学会)の年会において、優秀な講演をした学生に授与される賞 今大会は285名中44名に授与された</p>
<p>まつい けいすけ 松井 圭佑</p>	<p>2022年8月2日-4日にかけて東京工業大学大岡山キャンパスで開催された錯体化学若手の会夏の学校2022において、口頭発表を行い、「優秀講演賞」を受賞した。 Presentation ID: O-03 Title: Synthesis and structural study of pentavalent fullerenes</p>	
<p>きむら あやの 木村 彩乃</p>	<p>[学術研究] 第76回 日本栄養・食糧学会大会 日時：2022年6月10日～6月12日 会場：兵庫県 武庫川女子大学 上記大会において、「学生優秀発表」を受賞した。 発表演題：メトキシフラボンによる筋肥大促進におけるGPR97-SRFシグナルの関与 【大会概要】 栄養科学ならびに食糧科学に関する学理および応用の研究についての発表、知識の交換、情報の提供を行う事により、栄養科学、食糧科学の進歩普及を図り、わが国における学術の発展と国民の健康増進に寄与する研究成果を発表する年次学会です。 【規模】 大会での演題数：505件 参加人数：1674名 この賞にエントリーした発表数：89件 受賞者数：10名</p>	
<p>まつもと りゅうせい 松本 隆聖</p>	<p>1. 金属が関わる細胞内の反応に関して研究成果を発表する年次学会、第31回金属の関与する生体関連反応シンポジウム(SRM2022) (2022/6/18-19)において、「優秀ポスター発表賞」を受賞した（ポスター発表数：25件、受賞者数：5名）。タイトルは「Creation of artificial metalloenzymes toward stereodivergent Michael addition reaction」 2. 生物無機化学分野の若手研究者が集まるサマースクール、第34回生物無機夏期セミナー（2022/8/26-27）において、「優秀ポスター賞」を受賞した（ポスター発表数：24件、受賞者数：4名）。タイトルは「立体選択的マイケル付加反応を志向した人工金属酵素の創製」 3. 細胞内での代謝やそのバイオテクノロジー的利用を目指した研究者が研究成果を議論する、第16回バイオ関連化学シンポジウム（2022/9/10-12）において、「優秀ポスター賞」を受賞した（ポスター発表数：80件、受賞者数：4名）。タイトルは「立体選択的マイケル付加反応を志向した人工金属酵素の開発」</p>	

【大阪市立大学】

氏名	成績や功績の内容（所属長推薦理由）	補足事項
<p>こばやし ちひろ 小林 千紘</p>	<p>小林千紘さんの令和3年度卒業論文「大阪市阿倍野区の買い物環境とフードデザート」は、令和4年1月に提出されました。その後、卒業論文の内容を、日本都市地理学会の『都市地理学』に査読論文として投稿したところ、大きな改変をすることなく受理され、令和4（2022）年3月15日発行の『都市地理学』Vol.17に掲載されました。掲載論文の82頁の付記には、「本稿は、2021年度に大阪市立大学商学部へ提出した卒業論文を加筆・修正したものである」と記され、かつ、68頁の所属名は「大阪市立大学・学生」と記されています。学部生の卒業論文が、在籍中に査読学術誌の論文として掲載されることは類い稀なることであり、卒業論文の内容が優秀な学術研究であったことの証左です。大阪市立大学商学部の名を知らしめる、大きな貢献を行った者として、小林さんを推薦いたします。</p>	

<p>きた ゆう 紀太 悠</p>	<p>【学術研究】 第130回触媒討論会（令和4年9月20日（火）～22日（木）富山大学五福キャンパス）にて「学生口頭発表賞」として選定された。 講演題目「生体/光触媒色素を用いた可視光駆動型ワンポット系による二酸化炭素およびアセトンから生分解性高分子モノマーの合成」 受賞者は1名である。</p>	<p>【大会概要】 一般社団法人触媒学会が主催する討論会で口頭発表とポスター発表とで構成されている。 【規模】 総口頭発表数 376件 総ポスター発表数 62件。 口頭発表の内発表15分・討論15分で構成されるA2講演の中（15件）から学生口頭発表賞1名が選出される。 【その他特記事項】 当該表彰対象業績に関連して以下の学術論文掲載及び表彰も受けている。 ①Yu Kita and YutakaAmao.“Visible-light driven3-hydroxybutyrate synthesis from CO2and acetone with the hybrid system ofphotocatalytic NADH regeneration and multi-biocatalysts”, Chemical Communications,2022,58,11131-11134. ②2022年度触媒学会西日本支部第13回触媒科学研究発表会ポスター賞受賞</p>
<p>てらにし ともり 寺西 智徳</p>	<p>[学術研究] 日本化学会秋季事業 第11回CSJ化学フェスタ2021 (2021/10/19~21) 上記学会において、「優秀ポスター発表賞」を受賞した。</p>	<p>タイトル「"リングサイズ発散"合成戦略の確立と天然物合成への応用」 [大会概要] 化学に関する研究成果を発表する国内最大規模の年次シンポジウムです。参加者：約3,500名 [規模] ポスター発表件数：954件 受賞者数：最優秀ポスター発表賞9件、優秀ポスター発表賞172件</p>
<p>きやま はな 木山 花</p>	<p>木山 花さん（後期博士課程2年生、指導教員：宮田真人教授）は、2021年11月1-4日にイスラエルのテル・アビブ（リモート）で行われた国際マイコプラズマ学会（IOM: International Organization for Mycoplasmaology）にて、自身の研究内容を「Spiroplasma swimming reconstructed in minimal cell」のタイトルで講演し、学生を対象とした最優秀発表賞であるHarry Morton賞を受賞しました。また、これ以外にも本人が3回の学会発表(1回の招待講演を含む)を行い、第60回日本生物物理学会年会（2022年9月）にて学生発表賞を受賞しました。同内容は、2021年11月に「Reconstitution of minimal motility system based on Spiroplasma swimming by expressing two bacterial actins in synthetic minimal bacterium」のタイトルでプレプリントサーバーbioRxivにて公開され、2022年10月7日にAAASの雑誌、Science Advances (IF=14.136) にResearch Articleとして受理されました。</p>	<p>同内容にいたる研究について、対象期間以前に本人が7回の学会発表(1回の招待講演を含む)を行い、4回の学会賞を受賞しました。またこの研究を元とした提案が、日本学術振興機構DC1のテーマとして採択されています。さらに同内容を発展させるテーマがCRESTプロジェクト「合成細菌」CVI syn3.0B とゲノム操作を用いた細胞進化モデルの構築」（代表：宮田真人）として2019年に採択されています。</p>
<p>せき そういちろう 関 荘一郎</p>	<p>【学術研究】 第18回国際光合成会議（令和4年7月31日～8月5日ダニーデン、ニュージーランド）にて最優秀ポスター賞を受賞した。 講演題目「The blue-green light dependent carotenoid interconversion in LHClI ofCodiumfragile」 受賞者は4名である。</p>	<p>【国際会議概要】 国際光合成学会(International Society ofPhotosynthesis Research)が3年に一度主催する国際会議で公用語は英語、基調講演、口頭発表とポスター発表で構成されている。 【規模】 総基調講演数21件、総口頭発表数114件、総ポスター発表数164件 全てのポスター発表から4件が最優秀ポスター賞として選出された。 【その他特記事項】 当該表彰対象業績に関連して以下の学術論文掲載及び掲載号の表紙として紹介された。 ① Soichiro Seki,YumikoYamano,Naohiro Oka,Yasuhiro Kamei and Ritsuko Fujii,"Discovery ofa novel siphonaxanthin biosynthetic precursor in Codiumfragile that accumulates only by exposure to blue-green light",FEBSLet.,2022,596(12),1544-1555. ② 表紙(FrontCover)：FEBSLet.,2022,596(12),1483-1484.</p>
<p>すぎた だいき 杉田 太樹</p>	<p>2021年日本物理学会秋季大会にて学生優秀発表賞を受賞 発表タイトル：1/4充填近傍の一次元系の基底状態</p>	
<p>やまざき こうへい 山崎 耕平</p>	<p>2021年秋に開催された環境科学会2021年会で「PRTRの届出外排出量推計における試薬に係る総排出量推計方法の検討」が優秀発表賞を受賞した（pdf参照）。特筆すべき点は、その前年度（環境科学会 2020年会）にも優秀発表賞を受賞している事である（「PRTR制度におけるすそ切り以下事業者からの化学物質排出量の推計精度」、pdf参照）。若手研究者や学生の奨励を目的として多くの人材に与えられるのが一般的である優秀発表賞を同一学会で2年続けて表彰されたことは異例で、彼の非常に優秀な発表と有意義な研究成果が認められた証であり、彼の優秀さを示している。 当該研究は、化学物質管理制度（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）の不備・課題を初年次に指摘し、翌年度にその改善策を提案した点で意義深い。環境省・経済産業省より研究内容について問い合わせを受けており、将来的な法制度の改正にも反映される可能性があり、社会的貢献も大きい。 また、彼は在学中に非常に積極的に研究を進め、筆頭著者での査読付き論文1報、共著者での査読付き論文3報を発表しており、うち一報は、今年度前期に第24回環境学会論文賞を受賞している（山崎君は第3著者。pdf参照）。</p>	<p>・国際学会での発表はないが、これは研究テーマが国内制度を対象にしていたことによるものである。 ・各種学会での表彰については以下で確認できる。 環境科学会 https://www.ses.or.jp/katsudou/prize/ 環境技術学会 https://www.jriet.net/ronbun.html</p>
<p>もりもと こうへい 森本 晃平</p>	<p>森本氏は、現在後期博士課程D3に在籍しており、「有機光反応性分子結晶の光反応ダイナミクスと固体物性変化」の研究課題で研究を推進しています。特に、巨視的な固体物性変化である光誘起結晶形状変化（フォトメカニカル応答）について、紫外光照射に伴う吸収スペクトル変化と結晶形状変化を同時に計測することで、結晶中の光反応ダイナミクスとフォトメカニカル応答の関係を明らかにすることに成功しました。この研究成果は、化学分野において世界最高峰のドイツ学術雑誌である「Angewandte Chemie International Edition誌」(IF: 15.336)のVIP (Very Important Paper)論文として掲載され、さらに当該雑誌の Inside Back Cover に選出されました。この優れた功績は、学長表彰に値するものと認め、森本氏を候補者として強く推薦します。 【根拠資料】 論文のpdf、Inside Back Coverのpdf</p>	
<p>にたはら ゆうこ 仁田原 裕子</p>	<p>仁田原裕子氏は、2019年4月医学研究科に入学後、現在に至るまで、新興・再興感染症領域において、数多くの幅広い研究実績を積み上げてきました。仁田原氏は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の自然感染とワクチン接種の免疫応答研究を自ら立案・計画し、遂行しただけではなく、中南米の最大規模の顧みられない熱帯病であるシャーガス病の分子疫学研究に従事しています。 前者については2021年に生物学分野の世界的学会誌である米国微生物学会のMicrobiology Spectrum 誌 (IF=9.04) に掲載され、注目を得た結果、2022年6月には、同学会国際大会（ASM Microbe, ワシントンD.C.）のシンポジウム口頭発表に採択され、海外研究者からも高く評価されました。 後者については、中米エルサルバドル研究機関とのシャーガス病国際共同研究を牽引し、エルサルバドル全域での媒介昆虫疫学調査により高リスク地域を特定しました。この成果は、2022年に国際学術誌Infectious Diseases of Poverty (IF=10.48) に掲載され、国内外で多くの注目を得ました。 このように仁田原氏は、感染症研究において、他の模範となる活動をし、本学の名誉を高めたことから、学長表彰に値すると考え、ここに推薦します。</p>	<p>・エルサルバドルでの感染症対策が評価され、COVID-19 感染制御を目的とした南米ポリビアの世界銀行プロジェクトに、日本人唯一の感染症専門家コンサルタントとして抜擢された。 ・2022年4月より日本学術復興会特別研究員DC2に採用された。 ・女性ヘルスケア研究にも興味を持ち、2022年10月よりSTART大学エコシステム推進型GAPファンドプログラムの研究代表者として活躍している。</p>

<p>ごとうだ ゆうと 後藤田 祐登</p>	<p>日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技「『他者』とともに生きる建築」支部入選 第6回未来こども園建築デザインコンペUnder30部門優秀賞</p> <p>学術研究を活かして応募した上記2つの設計デザインコンペティションにて、優秀な成績を納めた。</p> <p>「日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技」応募作品「地域に寄り添う出張所」単独応募 「第6回未来こども園建築デザインコンペUnder30部門優秀賞」応募作品「水たまりから」単独作品</p>	<p>「日本建築学会2022年度支部共通事業設計競技」は日本建築学会が毎年主催する設計競技で、今年の応募数 285 作品、支部入選 62 作品（現在は速報のみ）。</p> <p>「未来こども園建築デザインコンペ」は建築・設計業界の未来を担う人材の育成・支援を目的として、ユース計画研究所が主催するコンペ。180を超えるエントリー、80作品以上応募。受賞作品紹介ページ https://us1130.co.jp/competition/</p>
----------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【大阪府立大学】

氏名	成績や功績の内容（所属長推薦理由）	補足事項
<p>きっかわ しょうご 吉川 翔悟</p>	<p>米国公認会計士試験現役合格（3年次）</p>	<p>合格証書は、実務経験を経てCPAとして登録された時のみ発行される。試験は英語で実施され、試験科目は財務会計、監査論、ビジネス環境と概論、税法という4科目からなる。主催の米国公認会計士協会（American Institute of Certified Public Accountants、AICPA）によると、4科目平均の合格率は57.7%、日本在住者の4科目平均の合格率は41.2%である（合格当時）。米国司法試験同様のいわゆる世界中のエリート社会人が受験する類の試験であり、学士課程在学中に全科目を合格したことはきわめて高く評価される。 試験概要 https://www.aicpa.org/resources/article/learn-more-about-cpa-exam-scoring-and-pass-rates</p>
<p>しばた ゆうき 柴田 祐季</p>	<p>[学術研究] 第38回ファジイシンポジウム（FSS2022・2022/9/14-16） オンライン開催において以下の発表でFSS優秀発表賞(Fuzzy Special Session Presentation Award)を受賞しました。</p> <p>企画セッション：あいまいなゲーム研究とミニ四駆AI 講演タイトル：カメラを用いた位置推定に基づくミニ四駆の自動制御と通信遅延への対処</p>	<p>【共著者】 清水大樹・中島智晴・楠木祥文 【大会概要】 ソフトウェアに関する研究成果を発表する年次学会です。 【規模】 発表数：178件 受賞者数：26名</p>
<p>なかの てっしゅう 中野 哲稔</p>	<p>公認会計士試験現役合格（3年次）</p>	<p>令和3年公認会計士試験では、願書提出者14,192人、最終合格者数1,360人、合格率9.6%の難関であった。 試験概要 chrome-extension://efaidnbmninnbpcjpcglclefindmkaj/https://www.fsa.go.jp/cpaob/kouninkaikeishi-shiken/ronbungokaku_r03/01.pdf 官報 https://search.kanpoo.jp/r/20211124g264p17-6/#%E5%85%AC%E8%AA%8D%E4%BC%9A%E8%A8%88%E5%A3%AB%E8%A9%A6%E9%A8%93</p>
<p>まつもと たつき 松本 龍樹</p>	<p>2022年8月21日に第20回医療情報技術師能力検定試験を受験し、10月6日に合格・認定を受けた。 【医療情報技術師能力検定試験の概要】 医療情報技術師能力検定は、医療情報技術師としての能力・資質が十分であることを示す全国規模の試験であり、2003年から実施され、年度によってばらつきがあるが、受験者数は3500～4000人程度、合格者数は1000～1500人程度（平均33%）と、難関の資格試験である。 試験科目は、情報処理技術系（50問100点）、医療情報システム系（60問120点）、医学・医療系（50問100点）の3科目である。医療情報技術師の資格を得るためには、これら3科目すべてに合格する必要がある。 出題範囲・到達目標はそれぞれ医療現場のニーズに応じたものとなっており、情報処理技術能力や医療情報の特性、医療情報システム構築のために必要となる知識を問われる。また制度改正の内容も問われるため、情報技術や医療業界の動向を日ごろから把握しておく必要がある。</p> <p>第20回医療情報技術師能力検定試験 受験者数：約3400人 合格者数：1161人（33.3%） 医療情報技術師認定者の年齢は25～39歳が最も多く、次いで20代前半・40代が多くなっている。</p>	<p>認定証は11月1日より発送されることから、今回は合格の証明として、受験票と合格発表の画面キャプチャを提出する。</p>
<p>たかもと りょうへい 高本 凌平</p>	<p>高本君は2022年7月25日に姫路で開催された第25回画像の認識・理解シンポジウム（MIRU）2022若手プログラムにて優秀発表賞を受賞しました。 画像の認識・理解シンポジウム（MIRU）は画像の認識と理解技術に関する国内最大規模の会議です。ここは大学/産業を問わず、研究者、技術者、そして次世代を担う学生の議論・交流の場かつ基礎から応用まで最新の研究発表と討論の場となっています。このMIRUと併せて行われるコンピュータビジョンに興味を持つ若手の方を対象にした交流企画の一つがMIRU若手プログラムで、今回はグループ毎に決定したテーマに沿ったサーベイを行い、発表を行いました。 学生や社会人など様々なメンバーが集まったグループでの共同作業において彼はタスクの割り振りから発表資料、ポスターのたたき台の作成まで幅広い業務を担いリモートでの作業がスムーズに進められるよう尽力していました。そして発表では明快な資料と人を惹きつけるプレゼンを認められて優秀賞を受賞しました。この時期の4回生での研究発表は非常に希で彼が卒業研究を積極的に進め、成果を上げている証であるといえます。 このような功績から高本君のことを学長表彰候補者に推薦いたします。</p>	
<p>とくまる みきと 徳丸 幹人</p>	<p>第24回化学工学会学生発表会にて優秀賞を受賞。 開催日：2022年3月5日 発表題目：微粒子化農業を用いた灰色カビ病の防除 発表者：○徳丸幹人、野村俊之</p>	
<p>はばた まさし 幅田 真史</p>	<p>幅田真史君は、毎年一回開催される、日本保全学会学術講演会において、優秀な発表を行い、以下の賞を受賞したので学長表彰候補者として推薦する。</p> <p>学会名：2022年度日本保全学会第18回学術講演会 場所：京都大学吉田キャンパス 日時：2022年7月13日～15日 発表題目：「修正熱収縮法による残留応力予測法の開発」 発表形式：ポスター・口頭発表の併用 受賞名：「学生セッション」独創賞</p>	<p>応募者数：16名 受賞者数：3名 受賞時：B4</p>
<p>こでら ちあき 小寺 千晶</p>	<p>第116回 日本獣医循環器学会において「冠静脈洞左房交通症の犬の1例」の演題名にて症例発表を行い、優秀学会発表賞を受賞したため。</p>	
<p>いさじ おうた 伊左治 桜太</p>	<p>獣医解剖学研究室に所属する獣医学類6年生の伊左治桜太君は、第165回日本獣医学会学術集会（2022年9月6日～8日開催）において、「精巢間質マクロファージニッチの特性」と題する研究発表を行い、「学術集会優秀発表賞」を受賞した。所属する獣医解剖分科会からは47演題の発表があり、2演題が優秀発表賞を受賞した。日本獣医学会学術集会は、年1回開催される全国学術集会で、優秀発表賞の受賞は、本学の名誉を高めた研究活動実績と評価することができる。</p>	

<p>いまよし ゆうすけ 今吉 優輔</p>	<p>The 8th Asian Particle Technology Symposium (APT2021) (2021/10/14)において、Excellent Poster Awardを受賞した。</p>	<p>The 8th Asian Particle Technology Symposium (APT2021)において、化学工学に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目 「Continuous measuring of die wall pressure for studying the effect of compression speed」</p>
<p>いわお もとし 巖 元志</p>	<p>8th Asian Particle Technology Symposium (APT2021)において、APT Excellent Poster Awardを受賞した。 8th Asian Particle Technology Symposium (APT2021)において、粉体工学会 2021 年度秋期研究発表会 BP 賞（ベストポスター賞）を受賞した。</p>	<p>8th Asian Particle Technology Symposium (APT2021)において、粉体工学に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目 「Solid-electrolyte/graphite composite particle for all-solid-state lithium ion battery」 のポスター発表を行い、APT Excellent Poster Awardを受賞した。 ポスター発表者：140名 APT Excellent Poster Award受賞者：14名</p>
<p>うめだ じゅん 梅田 隼</p>	<p>日本船舶海洋工学会賞（論文賞）を受賞(2022年5月26日)。 論文名：並進動挿型波力発電装置を対象とした実時間最適制御法の水槽模型試験による検証 著者：谷口 友基, 藤原 敏文, 梅田 隼, 二村 正, 片山 徹 掲載URL：https://www.jasnaoe.or.jp/commendation/list.html</p>	
<p>えのくら ひろし 榎倉 浩志</p>	<p>2021年電気学会産業応用部門大会（2021年8月25日～27日）での講演発表に対して産業応用部門優秀論文発表賞を受賞した。 発表題目「PMSMの直接トルク制御におけるトルク制御特性を改善する制御器構成」 受賞日 2022年8月30日（2022年電気学会産業応用部門大会表彰式において）</p>	<p>【表彰規定】電気学会産業応用部門大会における発表を対象として優秀論文を資格対象者（35歳程度以下で同賞を受賞したことが無い者）論文の10%程度を選定 【規模】受賞者数：19名</p>
<p>おかだ あつし 岡田 淳之</p>	<p>第129回日本画像学会年次大会でのポスター発表により、2022年6月22日に日本画像学会ベストポスター賞並びに日本画像学会誌編集委員長賞を受賞したため。 (URL：https://www.imaging-society-japan.org/conference/ICJ2022S/)</p>	
<p>おかむら たくみ 岡村 拓海</p>	<p>第73回コロイドおよび界面化学討論会(2022/9/20-22)において、ポスター賞を受賞した。 The 8th Asian Particle Technology Symposium (2021/10/11-14)において、Excellent Poster Awardを受賞した。</p>	<p>日本化学会コロイドおよび界面化学部会が主催する研究発表会において、コロイドや界面化学に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目 「微弱電場印加下でナノ粒子が促進する細胞膜透過の定量的理解」 のポスター発表を行い、ポスター賞を受賞した。 ポスター発表者：183名 優秀賞受賞者：25名</p>
<p>かせばやし けいと 加瀬林 啓人</p>	<p>博士前期課程2年の加瀬林啓人君は、ペロブスカイト型遷移金属酸化物の量子多体現象（近藤効果）に関する優れた研究成果を挙げ、米物理学会刊行の「Physical Review X」（2021年度インパクトファクターIF=14.417）に2022年1月26日に出版されました（特記事項1）。Physical Review X誌は、基礎物理学の研究分野において、最も権威のある国際学術雑誌の一つであり、博士前期課程の段階の学生が主導した研究成果が掲載されたことは、本人の秀でた能力を示すのもちろんのこと、本学の大学院研究及び教育水準を国内外に示す顕著な功績であると考えます。国内外の研究機関からなる国際的なチームで遂行された当該研究において、本人はスーパーコンピュータを用いた理論解析を担当し、研究成果に大きく貢献しました。この業績はプレスリリース（日本語と英語）しており（特記事項2）、本学の研究成果の国内外への発信にも大きく貢献したと考えます。以上の研究業績から、加瀬林啓人君を学長表彰に推薦いたします。</p>	<p>The 8th Asian Particle Technology Symposiumにおいて、粉体工学に沿った 1) D. Takegami, C. -Y. Kuo, K. Kasebayashi et al. Physical Review X, 12, 011017 (2022) https://journals.aps.org/prx/abstract/10.1103/PhysRevX.12.011017 2) プレスリリース（大阪府立大学 2022年1月31日）「遷移金属酸化物の近藤効果を初めて実証—電子相関物性の設計・探索の新たなプラットフォームを開拓—」 https://www.osakafu-u.ac.jp/press-release/pr20220131/</p>
<p>かたやま ゆいか 片山 唯佳</p>	<p>第29回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ（2021/10/25, 26, 27開催）において、「優秀フイットニングトーク賞」を受賞したため、学長表彰に推薦します。 【大会概要】 本ワークショップは高速通信、分散コンピューティング、マルチメディア情報通信、知的通信、プロトコル、分散協調などの研究分野について全国から専門家が集結し、通常の研究会以上に深い議論を行うことを目的とした宿泊形式の研究発表会です。受賞したライトニングトークのカテゴリは、ポスター発表のオンライン版です。 【規模】 ライトニングトーク発表数：6件</p>	
<p>かわの こうよう 川野 弘陽</p>	<p>2022年9月14日(水)～16日(金)にオンラインで開催された第38回ファジィシステムシンポジウム(FSS2022)[http://fss.j-soft.org/2022/]において、企画セッション「ECOmp」にて当該学生が行った下記の発表に対し、「FSS優秀発表賞」が授与された。 発表タイトル： 2段階棄却オプションを導入したファジィ識別器の精度と識別拒否のトレードオフ解析 著者： ○川野 弘陽(大阪公立大学), Eric Vernon(大阪公立大学), 増山 直輝(大阪公立大学), 能島 裕介(大阪公立大学), 石淵 久生(南方科技大学)</p>	<p>ファジィシステムシンポジウム(FSS)は1985年(昭和60年)から毎年開催されており、本年度のFSS2022で第38回目となる日本知能情報ファジィ学会の伝統ある全国大会である。 知能情報処理分野において著名な学会であり、本年度は全国から178件の発表が集まった。</p>
<p>かわはら さき 川原 早貴</p>	<p>学術研究 The 5th International Union of Materials Research SocietiesおよびInternational Conference of Young Researchers on Advanced Materials (IUMRS-ICYRAM 2022、8/3-6、福岡)において Researcher Awards Bronze（ポスター賞）を受賞した。 102人中16人受賞 https://icyram2022.wixsite.com/official-site</p>	
<p>きだ はやと 木田 迅飛</p>	<p>日本混相流学会主催 混相流シンポジウム2022にて、「ベストプレゼンテーションアワード」を受賞した。</p>	

<p>きむ へらん K I M H A E R A N G</p>	<p>2022年9月21日(水)～22日(木)に神戸大学六甲台第2キャンパスで開催された第30回インテリジェント・システム・シンポジウム(FAN 2022)[https://sites.google.com/view/fan2022/]において、セッション「継続学習と知能の創発」にて当該学生が行った下記の発表に基づき、「プレゼンテーション賞」を授与された。</p> <p>・目的関数ベースの Rough Membership C-Means クラスタリングに基づく協調フィルタリング ○キム へらん(大阪公立大学), 生方誠希(大阪公立大学), 本多克宏(大阪公立大学)</p> <p>※本賞は74件中7件の発表者に授与されたものである。</p>	
<p>こてら やすひと 小寺 祥仁</p>	<p>日本ゾル-ゲル学会第20回討論会 (2022/7/14～15) において、ベストポスター賞を受賞した。(ポスター発表数: 49件、受賞者数: 6名) https://www.jpn-sol-gel.org/conceptmtg.html</p> <p>日本ゾル-ゲル学会はゾル-ゲル科学技術の確立に向けて、研究成果の情報交換を目的とし、討論会では本分野で著名な講師による講演や研究成果の発表会が年次行われる。</p> <p>タイトル「逆メソ構造内でのシングルナノメートルスケールの結晶性シリカナノ粒子形成」</p>	<p>上記の研究内容は学術誌 "Chemistry Letters" (2022, Vol51) にも投稿され、国際的にも認められた研究成果である。</p>
<p>しまだ たくみ 島田 拓弥</p>	<p>[学術研究] The 8th East Asia Joint Symposium on Plasma and Electrostatics Technologies for Environmental Applications(EAPETEA-8) (2021/10/18-21)</p> <p>上記大会において、"Outstanding Poster Presentation Award"を受賞した。 タイトル"Toward Ideal VOCs and Nanoparticle Emission Control Technology Using a Wet-Type Catalysis Nonthermal Plasma Reactor"</p>	<p>【大会概要】 プラズマ、静電気科学とその応用に関する研究成果を発表する国際学会である。</p> <p>【規模】 総発表件数: 123件 うちポスター発表件数: 91件 ポスター発表受賞者数: 5名</p>
<p>たけだ はるうみ 竹田 晴海</p>	<p>竹田くんは、2021年12月14-15日の二日間行われた、化学工学会関西支部主催の化学工学会関西大会2021において、「金属の酸溶解反応の解析と発生ガスの吸収除去」の言うタイトルの口頭発表を行い、複数の審査委員の評価点が上位10%以内の学生に与えられる「学生優秀研究発表賞」を受賞したため。</p>	
<p>たなか りょうま 田中 亮匡</p>	<p>田中亮匡君は、毎年一回開催される、日本保全学会学術講演会において、優秀な発表を行い、以下の賞を受賞したので学長表彰候補者として推薦する。</p> <p>学会名 : 2022年度日本保全学会第18回学術講演会 場所 : 京都大学吉田キャンパス</p>	<p>応募者数: 16名 受賞者数: 3名 受賞時:学部: M2</p>
<p>ながおか ともき 長岡 朋希</p>	<p>下記4つの学会において賞を受賞した。</p> <p>1. 学会名: 日本化学会秋季事業 第11回CSJ化学フェスタ2021 会期: 2021年10月19-21日 (オンライン) 演題: ペンタレンジオンを基盤とした高励起三重項準位シングレット フィッシュン材料の開発 受賞: 優秀ポスター発表賞</p> <p>2. 学会名: 第56回有機反応若手の会 会期: 2022年8月3-5日 (オンライン) 演題: ビシクロ[3.3.0]オクタジエン骨格を基盤とする分子内二重D-A分子の 固体発光 受賞: 優秀ポスター賞</p> <p>3. 学会名: 第32回基礎有機化学討論会 会期: 2022年9月20-22日 (対面) 演題: 広いS1-T1エネルギーギャップをもつ交差共役シングレット フィッシュン材料の開発 受賞: ポスター賞</p>	<p>学会の概要</p> <p>1. 産官学の最先端研究、連携・交流深耕、企業や研究機関、学生の研究成果を発表、発信する全国規模の国内学会 規模: ポスター発表件数954件、受賞件数172件 (https://www.csj.jp/festa/2021/)</p> <p>2. 有機反応化学やその周辺分野に関する全国規模の国内学会 規模: ポスター発表件数42件、受賞件数8件 (https://touche-np.org/meeting/cgi-bin/application/db_application_e.cgi#Con)</p> <p>3. 有機化学全般に渡って研究成果を発表する全国規模の国内学会 規模: ポスター発表件数311件、受賞件数25件 (http://oec.kuicr.kyoto-u.ac.jp/~poc2022/)</p> <p>賞状</p> <p>1. 日本化学会秋季事業 第11回CSJ化学フェスタ2021 優秀ポスター発表賞</p>
<p>ながむら あつし 長村 篤</p>	<p>日本機械学会動力エネルギーシステム部門主催 「日本機械学会2020年度年次大会」における発表が「一般社団法人日本機械学会動力エネルギーシステム部門 優秀講演表彰」を受賞したため(2021年11月に受賞)</p> <p>対象講演タイトル: 「風速と波高の予見に基づく浮体式洋上風力発電システムのモデル予測制御(制御性能に対する風況および海況の影響分析)」</p>	

にしうみ こうすけ 西海 豪祐	日本分析化学会 第71年会において「若手ポスター賞」を受賞したため	ポスター賞：181件中上位20件受賞
はたなか ひろき 畑中 浩貴	2022年9月14日(水)～16日(金)にオンラインで開催された第38回ファジィシステムシンポジウム(FSS2022)[http://fss.j-soft.org/2022/]において、セッション「継続学習と知能の創発」にて当該学生が行った下記の発表に基づき、「FSS優秀発表賞」を授与された。 ・Rough C-Meansクラスタリングに基づく協調フィルタリングにおける種々の次元削減手法の活用 ○畑中 浩貴(大阪公立大学)、生方 誠希(大阪公立大学)、本多 克宏(大阪公立大学) ※本賞は178件中26件の発表者に授与されたものである。	
ひがし けいすけ 東 啓介	博士前期課程2年の東啓介君は、最近発見された新しい超伝導体(層状ニッケル酸化物)の電気伝導特性に関して、優れた研究成果を挙げ、その成果は本人を第一著者として、米国物理学会刊行の「Physical Review X」(2021年度インパクトファクター IF=14.417)に2021年10月14日に出版されました(特記事項1)。Physical Review X誌は、基礎物理学の研究分野において、最も権威のある国際学術雑誌の一つであり、博士前期課程の段階の学生が主導した研究成果が掲載されたことは、本人の秀でた研究能力を示すのはもちろんのこと、本学の大学院教育及び研究水準を国内外に示す顕著な功績であると考えます。また、この研究成果はプレスリリース(日本語と英語の両方)しており(特記事項2)、本学の研究成果の国内外への発信にも大きく貢献したと考えます。以上の研究業績から、東啓介君を学長表彰に推薦します。	1) K. Higashi, M. Winder, J. Kunes, and A. Hariki, Physical Review X, 11, 041009 (2021) (Altmetrics 71) https://journals.aps.org/prx/abstract/10.1103/PhysRevX.11.041009 2) プレスリリース(大阪府立大学 2021年10月4日)「超伝導の仕組み解明へ大きな一歩 層状ニッケル酸化物超伝導体の電子構造を解明!—新たな高温超伝導体の探索のヒントに」 https://www.osakafu-u.ac.jp/press-release/pr20211014/
ふくだ あかり 福田 明星	・国際会議”ODF’22, Sapporo”におけるBest Poster Awardの受賞 タイトル「High-Q Photonic Crystal Nanocavity with an Air-Hole Pattern without Mirror Symmetry about the x-and y-Axes」 発表者番号：P-OTh-40	
まつした みう 松下 美卯	The 8th Asian Particle Technology Symposium (APT2021) (2021/10/14)において、Excellent Poster Awardを受賞した。	The 8th Asian Particle Technology Symposium (APT2021)において、化学工学に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、題目「Effect of hold-up on granulated physical properties in twin-screw extrusion granulation system」のポスター発表を行い、Excellent Poster Awardを受賞した。 ポスター発表者：140名
みやざき たつや 宮崎 翼也	日本計算工学会 第27回計算工学講演会にて行った研究発表「AMR法を用いた電気自動車用モータの冷却液シミュレーション」がグラフィックスアワード特別賞を受賞した。(2022年6月2日)	
しみず ゆうき 清水 悠生	2021年電気学会産業応用部門大会(2021年8月25日～27日)での講演発表に対して産業応用部門優秀論文発表賞を受賞した。 発表題目「半教師あり学習データにより構築した深層生成モデルと畳み込みニューラルネットワークを活用したIPMSMの回転子設計システムの基礎検討」 受賞日 2022年8月30日(2022年電気学会産業応用部門大会表彰式において)	【表彰規定】電気学会産業応用部門大会における発表を対象として優秀論文を資格対象者(35歳程度以下で同賞を受賞したことが無い者)論文の10%程度を選定 【規模】受賞者数：19名
やの たける 矢野 武尊	化学工学会 第52回秋季大会(2021/9/22～2021/9/24)において、「シンポジウム賞(プレゼンテーション賞)」を受賞した。	The 8th Asian Particle Technology Symposium (APT2021)において、化学工学に沿った講演やポスター発表が行われた。本大会において、「微粉体の圧縮プロセスにおける弾塑性変形挙動の解析」のポスター発表を行い、「シンポジウム賞(プレゼンテーション賞)」を受賞した。 なお、本発表結果は2021/10/21に公表された。
よしかね なおや 芳鐘 順也	当学生は、精力的に研究活動に取り組み、国際・国内学会を問わず積極的に研究成果を発表することで本学の名誉向上に貢献した。その中でも先月9月に行われた第72回錯体化学会においては、英語での口頭発表を行う39名の応募者の中から上位12名に与えられる学生講演賞を受賞した。さらに、研究成果の独自性と学術領域に与えた貢献度が高く評価され、受賞者の中において最上位一名のみに贈られる「Inorganic Chemistry Frontier賞」に選出された。 また当学生は、その研究遂行能力が高く評価され、本年7月には日本学術振興会から、国際的な活躍が期待できる博士学生として「若手研究者海外挑戦プログラム」を、9月には将来の学術研究を担う優れた若手研究者として「特別研究員DC2」に採用された。 以上二つの業績から、当学生は高度研究型大学を掲げる本学の名誉を著しく向上させた為、学長表彰に値する人物として推薦する。	■学会発表 8th Asian Conference on Coordination Chemistry (2022/7/28) 第72回錯体化学討論会(2022/9/27) ■受賞・フェロウシップ 日本学術振興会 若手研究者海外挑戦プログラム 日本学術振興会 特別研究員DC2 錯体化学会 学生講演賞 Inorganic Chemistry Frontier賞

<p>り しこう 李 志浩</p>	<p>李志浩君が共著者として解析を実施した、下記の軽金属溶接協会への査読付き論文において、以下の賞を受賞したので学長表彰候補者として推薦する。</p> <p>受賞名 : 第40回軽金属溶接論文賞 場所 : 東京ガーデンパレス 日時 : 2022年6月7日(火) 発表題目: 「摩擦攪拌接合時の力学的挙動の数値解析的検討」 著者 : 生島一樹, 李志浩, 木谷悠二, 前田新太郎, 宮坂史和, 柴原正和</p>	<p>軽金属溶接論文賞は、同協会に投稿される全論文のうち、年間で1件のみ受賞。 (受賞時: D2)</p>
<p>おかざき ゆういち 岡崎 湧一</p>	<p>2022年9月14日から16日に徳島大学で開催された日本セラミックス協会第35回秋季シンポジウムの『「組み合わせの科学」によるマルチスケール』セッションにおいて、岡崎湧一氏が「ベイズ最適化を用いた高エントロピー酸化物触媒の設計」セッション内の全43件の発表の中から「最優秀講演賞」を受賞したため。</p>	
<p>きむら たくや 木村 拓哉</p>	<p>The 23rd International Conference on Solid State Ionics (SSI-23)(令和4年7月17日～22日開催)において、「SSI-23 2022 Outstanding Poster Award」を受賞(受賞日: 令和4年7月22日)</p> <p>発表題目: Structure Changes of Li4SnS4 Electrolytes in Humidified Atmosphere</p>	<p>2年に1回開催される国際学会において、優秀なポスター発表に授与される賞 今回は159名中14名に授与された</p>
<p>たにぐち ともき 谷口 友基</p>	<p>日本船舶海洋工学会賞(論文賞)を受賞(2022年5月26日)。</p> <p>論文名: 並進動揺型波力発電装置を対象とした実時間最適制御法の水槽模型試験による検証 著者: 谷口友基, 藤原敏文, 梅田隼, 二村正, 片山徹 掲載URL: https://www.jasnaoe.or.jp/commendation/list.htm</p>	<p>受賞時点で、博士後期課程3年生として在籍していた。2022年9月末日、学位取得修了。 学籍番号は在籍時のもの。</p>
<p>ととき えいご 十時 詠吾</p>	<p>(1) 令和4年 電気学会 電気学術振興賞(論文賞)を受賞した。 論文題目「集中巻PMモータの新巻線方式によるトルクリプル低減」</p> <p>(2) 2022年 電気学会産業応用部門論文賞を受賞した。 論文題目「集中巻PMモータの新巻線方式によるトルクリプル低減」 掲載誌: 電気学会論文誌D, Vol. 141, No. 10, pp.763-770, 2021年</p>	<p>(1)【表彰規定】電気学会論文誌および共連英文論文誌に発表された優秀な論文の著者(論文は平成30年12月から令和3年11月号に発表されたもので、原則として1論文を対象とする。) 【規模】受賞件数: 9論文</p> <p>(2)【表象規定】前年1月～12月に電気学会産業応用部門誌、もしくは</p>
<p>なす あきら 奈須 滉</p>	<p>電気化学会第89回大会(令和4年3月15日～17日開催)において、「優秀学生講演賞」を受賞(受賞日: 令和4年3月17日)</p> <p>発表題目: リンを負極活物質に用いた全固体ナトリウム電池の作製と評価</p>	<p>年1回開催される全国規模の学会(電気化学会)の年会において、優秀な講演をした学生に授与される賞 今大会は285名中44名に授与された</p>
<p>いそべ かずき 磯部 一樹</p>	<p>[学術研究] 第39回日本植物バイオテクノロジー学会(堺)大会 日時: 2022年9月11日～9月13日 会場: 大阪府堺市 大阪公立大学 上記大会において、「学生優秀発表」を受賞した。 発表演題: 植物細胞におけるステロールの生合成及び貯蔵部位の探索</p> <p>【大会概要】 植物組織培養、分子生物学、および細胞工学の基礎研究とその応用開発研究の発展を目指して、理学、農学、薬学、工学などの多方面の分野における研究者の協力と研究情報の交流を図ることを目的として、年一回開催される大会である。</p> <p>【規模】 大会での演題数: 204件 参加人数: 484名 この賞にエントリーした発表数: 67件 受賞者数: 7名</p>	<p>学会からの賞状が未着であるため、受賞者発表の行われた会報を添付する。 7ページ目「学生優秀発表賞」1人目。</p>
<p>よしおか さほ 吉岡 紗穂</p>	<p>金属が関わる細胞内の反応に関して研究成果を発表する年次学会、第31回金属の関与する生体関連反応シンポジウム(SRM2022)(2022/6/18-19)において、「優秀ポスター発表賞」を受賞した(ポスター発表数: 25件、受賞者数: 5名)</p> <p>タイトルは「Development of an artificial metalloenzyme for a stereoselective inverse electron-demand hetero-Diels-Alder reaction」</p>	
<p>きよかわ しょうた 清川 梢太</p>	<p>2021年度環境情報科学研究発表大会※(2021年12月開催)のポスターセッションにおいて、理事長賞を受賞した。</p> <p>研究タイトル LCCとトータルベネフィットに基づく街路樹の最適更新時期の検討</p> <p>※環境情報科学センターが年1回開催する研究発表のための全国大会。 別紙: 表彰状の写し、環境情報科学研究センターの概要</p>	

<p>よしはら あきこ 吉原 晶子</p>	<p>大阪府立大学 理学系研究科生物科学専攻 博士前期課程2年生の吉原晶子氏（指導教員：小林康一准教授）は、2021年10月29日に、国際誌Plant Cell Physiology誌に、シアノバクテリアの窒素飢餓応答に関する原著論文(1)を筆頭著者として発表し、2022年2月2日には、国際誌Journal of Experimental Botany誌に、光合成複合体における脂質の分布と役割に関する総説論文 (2)を筆頭著者として発表しました。また、2022年5月21日に、第12回日本光合成学会年会での口頭発表(3)により優秀発表賞を受賞し、2022年9月21日には、第34回植物脂質シンポジウムでのポスター発表(4)により最優秀ポスター賞を受賞しました。これらの顕著な功績は、吉原晶子氏の極めて優れた研究活動実績を示すものであり、学長表彰に十分に値するものと考えます。</p> <p>(1) Yoshihara A, Kobayashi K. Photosynthesis and cell growth trigger degradation of phycobilisomes during nitrogen limitation. Plant Cell Physiol., 63: 189-199, 2022.</p> <p>(2) Yoshihara A, Kobayashi K. Lipids in photosynthetic protein complexes in the thylakoid membrane of plants, algae, and cyanobacteria. J. Exp. Bot., 73: 2735-2750, 2022.</p> <p>(3) 吉原晶子, 和田元, 永田典子, 小林康一. 色素体酸性脂質はエチオプラストの発達に不可欠である. 第12回日本光合成学会年会2022年5月（オンライン）</p> <p>(4) 吉原晶子, 和田元, 永田典子, 小林康一. エチオプラストにおける色素体酸性脂質PG, SQDGの役割の解明. 第34回植物脂質シンポジウム2022年9月（京都大学宇治キャンパス）</p>	
<p>きんの あやか 金野 文香</p>	<p>第21回分子予防環境医学研究会にて若手優秀発表賞を受賞したため。</p>	<p>全発表26件のうち、3名が選ばれた。</p>
<p>こまえ そうめい 小前 奏明</p>	<p>候補者は、日本農芸化学会関西支部主催の第521回講演会において優れた発表内容が評価され、優秀発表賞を受賞したため。</p>	<p>発表題名「新規の機能性酸化代謝産物 2-オキシイミダゾールジペプチドの抗酸化メカニズムに関する研究」</p> <p>発表者5人中、1人受賞</p>
<p>ひらい まさと 平井 将登</p>	<p>『日本放射線影響学会第65回大会』（2022年9月15日～17日、大阪公立大学杉本キャンパスにて開催）において、優秀演題発表賞を受賞した。発表演題は、「ライブセルイメージングによるDNA ligase IVホモ接合体変異マウス細胞における高頻度なX線誘発異常核分裂の検出」。</p>	<p>日本放射線影響学会第65回大会は会員数800名からなる一般社団法人日本放射線影響学会の年次学術大会である。本大会の総参加者数は314名であり、また、教育講演1題、シンポジウム4題、ワークショップ9題、一般口演59題、ポスター発表86題、以上159題の発表とランチョンセミナー2題が行われた。優秀演題発表賞の受賞者は5名であった。</p>
<p>さきやま ことね 崎山 琴音</p>	<p>「2021年度教育システム情報学会 研究会優秀賞」を受賞し、第47回 教育システム情報学会 全国大会（開催日：2022/8/24～26、新潟工科大学）において、表彰（写真参照）を受けた。</p> <p>【タイトル】： 車いすによる段差乗り越え介助に関する技術指標と教育システムの考案</p> <p>【研究会優秀賞の概要（抜粋）】 教育システム情報学および関連分野における学問の発展を奨励することを目的として、本研究会で発表された研究のうち、特に優秀なものを選び、研究会優秀賞として表彰する。</p> <p>【規模】 受賞者数：4名（2021年度 研究会発表数：104件）</p>	
<p>ふくしま みずき 福島 瑞貴</p>	<p>「鑄造工学」は鑄造を専門とする国内でも著名な学会誌であり、筆頭著者として、論文が掲載された功績に対して推薦を行う。</p> <p>分位損失を用いた機械学習による黒鉛球状化処理におけるMg歩留まりの予測</p> <p>福島瑞貴, 上杉徳照, 辻川正人, 堤親平, 小川耕平, 澤田健二, 中本光二</p> <p>鑄造工学, 第94巻 第2号, pp. 69-75 (2022).</p> <p>https://doi.org/10.11279/jfes.94.69</p>	
<p>せき けいこ 関 恵子</p>	<p>日本看護技術学会 第19回学術集会（2021.10）学術集会最優秀賞を受賞</p> <p>「夜間勤務の看護師の腰痛に対する下肢マッサージの効果の検討—腰部脊柱起立筋のHb動態の変化から—」</p>	
<p>みずひき ちひろ 水引 智央</p>	<p>一般社団法人日本看護学教育学会 第32回学術集会において最優秀演題賞を受賞した(2022年8月7日)。</p> <p>演題名：新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリングの実効</p>	
<p>とうじょう しょうこ 東條 祥子</p>	<p>日本ビタミン学会第74回大会にて、下記の演題で学生優秀発表賞を受賞したことから、学長表彰候補者として推薦致します。</p> <p>「ビタミンE栄養状態と上気道感染症との関係についての施設入居高齢者コホート研究」</p> <p>本研究では、施設入居高齢者においてビタミンE栄養状態が低いことが、上気道感染症の罹患リスクとなる旨を明らかにしました。施設入居高齢者では上気道感染症から肺炎へと移行することも多く、その予防は極めて重要であり、栄養を介した疾患予防に関する重要な知見となりうる研究です。候補者はこの研究にあたって、血清ビタミンE濃度の測定並びにデータ解析に熱心に取り組み、本研究成果を挙げられました。</p>	<p>日本ビタミン学会は、1949年5月に設立された、ビタミン学に特化した学会であり、ビタミン学の研究の進歩、発展に貢献しています。国内外において、基礎・臨床の双方の研究活動で著名な学会です。</p>
<p>やすおか あかね 安岡 明希</p>	<p>令和4年度日本栄養・食糧学会にて、下記の演題で学生優秀発表賞並びに令和4年度日本栄養・食糧学会トビックス賞を受賞したことから、学長表彰候補者として推薦致します。</p> <p>「成人における動脈硬化性疾患リスクと血清25-hydroxyvitamin D濃度との関係」</p> <p>本研究では、日本人の中老年男性において、ビタミンD栄養状態の指標である血清25-hydroxyvitamin D濃度が低いと、動脈硬化のリスクが高いことを明らかにしました。動脈硬化は心筋梗塞や脳血管疾患といった重篤な疾患の要因となるため、この予防効果は重要な発見です。海外においても、動脈硬化とビタミンDとの関係は近年注目されており、トビックス賞対象演題として記者発表され、メディアにも掲載されました。</p> <p>候補者はデータ整理及び解析に熱心に取り組み、本研究成果を挙げられました。</p>	<p>日本栄養・食糧学会は、栄養学ならびに食糧科学の進歩をはかり、国民栄養の向上に寄与することを目的に、1947年に設立された歴史ある学会です。食糧と栄養に係る基礎研究から疫学研究までの幅広い分野の研究者が集まる栄養学分野の代表的な学会です。</p>